



International Council of Nurses
The Global Voice of Nursing

#NURSESFORPEACE



ICN #NursesForPeace - Campaign update 3

(2022年8月2日発表)

世界中の看護師が、国際看護師協会（ICN）の#NursesForPeace キャンペーン人道基金に寄付をし、ウクライナやその他の紛争地域の看護師への連帯と支援を表明しています。この寛大な寄付は、ウクライナに残る看護師とその家族、そして国内および他国へ避難している看護師を支援しています。

ウクライナ

紛争が始まってから5カ月、ウクライナの看護師はICNと連絡を取り合い、現地の状況を世界の看護師たちに伝えています。

ウクライナ看護師協会の Tetyana Chernyshenko 会長は、ICN の継続的な精神的・実地的な支援は、自国の看護師にとって重要な助けになっていると述べました。

「ウクライナは戦争状態にあり、毎日、多くの地域でロケット弾による攻撃が行われています。その結果、保健医療施設や学校、高等教育機関、住宅などが破壊され続けています。そのような非人道的な状況の中で、看護師や医師は、しばしば砲火の中で緊急的な医療を提供し、人命を救っています。



ICN の支援により、ウクライナの看護師は、この恐ろしい戦争の中で自分たちは一人ではないこと、世界の民主的な国々で看護を支援していること、そして私たちは国民の自由を守るために団結していることを実感しています。ウクライナの人々は非常によく働き、この戦争の壊滅的な恐怖をすべて克服する力を備えています。私たちに救いの手を差し伸べ、物質的に支援し、生じた被害の復興に携わってくださるすべての国民と各国政府に心から感謝します。国際看護師協会からの支援に感謝を捧げます。」



ICN パメラ・シプリアーノ会長は、次のように述べています。

「ウクライナでの戦争が続く中、ICN と会員協会は、#NursesforPeace キャンペーンを通じて、ウクライナの看護師を引き続き支援していきます。世界保健機関

(WHO) の最近の報告によると、ウクライナの保健医療への攻撃は 7 月 21 日現在で 401 件確認されており、85 人が死亡、100 人が負傷しています。保健医療と保健医療従事者の保護は最も重要であり、看護師は保護されなければなりません！」

ICN 人道基金は、ウクライナ看護師協会に資金を提供しています。それによって、協会が通常の機能を継続し、Grigorieva Tetyana Ivanivna 氏のような資金を最も必要としている看護師に直接届けることができます。Ivanivna 氏は、Luhansk Region 出身の看護師で、現在はウクライナ中部の都市 Poltava に避難しています。彼女は、今年 2 月から 3 月にかけて、絶え間ない砲火の中、地下室で 6 週間を過ごしたということです。その後、街が占領される 2 週間前に、彼女のアパートがミサイルで破壊され、自身の兄が殺されたために、彼女とその家族は街を離れることを余儀なくされました。

「私たちの人生は「前 (before) と後 (after) 」に分断されています。私は現在、Poltava に住み、眼科で看護師として働いています。このような困難な時に、住居と仕事を提供してくれる人たちがいることに、とても感謝しています。眼科チームの思いやりのある態度と理解にとっても感謝しています。このような困難な時期に経済的援助と支援を提供してくれた国際看護師協会に特別な感謝を捧げます。」

ウクライナの Chernihiv Regional 病院血管外科の看護師である Yaryna Oleksandrivna Hrytsenko 氏は、Chernihiv の占領下での体験を述べました。

「Chernihiv は 1 ヶ月以上封鎖され、毎日敵の砲撃による破壊にさらされ、人々は殺され、インフラは破壊されました。Chernihiv は人道危機の状態に陥りました。

毎日、負傷した兵士や民間人の数が増えていきました。ある手術室では、複数の手術チームが若い (兵士の) 命を守るために戦っていました..私たちは昼夜を問わず働いていました。手術室の窓はマットレスで覆われ、割れたガラスや砲弾から最低限守られるようにしていました。敵軍が住宅地に少なくとも 8 発の空爆を行い、多くの民間人が来院しました。公式データによると、少なくとも 47 人が死亡しました...この攻撃の主な犠牲者は、パンを買うために並んでいた民間人でした。

負傷者が多い時は...私たちは役職に関係なく助け合いました。医師も看護師もジュニアナースも、皆が同じレベルで働いていました。軍事活動が行われる中、医療従事者は立場に関係なく、常に主体性をもって仕事に取り組み、高い能力を証明しました。

自分たちのために一部屋を用意し、そこに同僚たちと一緒に住んでいました。最初は、照明、水、暖房など、生活に必要なものはすべてそろっていましたが、激しい砲撃が始まると、すべてが消え去りました。耐えられないほどの寒さで、水がないために病院全体の業務に大きな支障をきたしました。毎朝、病院に水が運ばれてきて、それをバケツに入れて、患者も私たちも最低限の衛生状態を保つようにしました。外科の若い医療スタッフは、シーツについた大きな血痕を洗おうとしましたが、これは非常に

困難だったため、業務の合間に皆で手伝いました。古い発電機では負荷に耐えられないので、一部の手術室しか明かりがありませんでした。ランタンの明かりの下で手術をしたり、麻酔科医が人工呼吸器なしで麻酔をしたり・・厨房は、患者も職員も誰も空腹にならないように、毎日休むことなく働きました。電気や水道が止まっても、野外の炊事場で調理を続けました。

(現在は) Chernihiv Regional 病院の仕事は、すでに通常のリズムに戻り、ささやかな恩恵を受けています。というのも、平穏な生活では気づかなかったありきたりなことの恩恵に、戦時中の欠乏を通じて気づかされたためです。医療従事者は最も大切なものである生きる希望を人々に与えたため、天使や救世主のような存在でした。彼らは、戦争がもたらす最悪の結果、すなわち、切断された身体、粉々にされた魂を目の当たりにしました。しかし、どんなことがあっても、私たちは優先されなければならないものを明確にしていました。それは「人」です。

5月、ICN ハワード・カットン事務局長は、ジュネーブの ICN 本部でウクライナの Oleksii Iaremenko 保健副大臣と会談しました。ICN は保健省と緊密に連携し、ウクライナの保健医療提供継続のための取り組みを支援することで合意しました。

ウクライナの Olena Zelenska 大統領夫人は、世界保健総会で、紛争が国民に与える心理的影響への取り組みの必要性について演説しました。ICN はこの問題を強く意識し、ウクライナなどにおける看護師のメンタルヘルスのニーズを改善する方法を探ってきました。

WHO はメンタルヘルスに関する様々なツールや、メンタルヘルスに精通した専門家へのサポートを行っており、ICN はウクライナの看護師がこのテーマに関する WHO のコースに参加する枠を確保しました。ICN は WHO 欧州地域事務局と協力し、実績のある研修リソースや開発機会を用いて、ウクライナの看護師にメンタルヘルスニーズに関する既存の研修を展開するために、ICN がどのような支援ができるかを検討する予定です。

ルーマニア

7月、ICN ハワード・カットン事務局長はルーマニアの首都ブカレストを訪れ、救急医療サービスの看護師と面会し、難民センターを訪問しました。現地では、ICN の寄付金が救急医療サービスの薬や備品にどのように活用されているかを目の当たりにしました。



写真 1：
ブカレストのルーマニア看護師協会事務所にて、
ICN が送った物資を確認する
ICN 事務局長

写真 2：
ブカレストで難民のための仮設
住宅として利用されている学生
寮を訪問する ICN 事務局長

写真 3：
新たに到着した難民を迎え、応急処
置を施し、さらなる治療のためにト
リアージを行うブカレスト主要駅の
救急医療テントでの ICN 事務局長

訪問後、カットン事務局長は次のように述べた。「ウクライナから到着した人々は、現在国内のどこも安全でないため、自国を離れています。彼らが列車を降りて最初に出会うのは看護師で、彼らを温かく迎え入れ、心身の状態をアセスメントしてくれるのです。」

6月の報告のとおり、ICNは、ルーマニア看護師協会に寄付を行い、看護師が多く所属する救急医療チームが、紛争のために国を追われルーマニアに到着したウクライナ難民のために活動することを支援しました。カットン事務局長によると、ルーマニア看護師協会は、ウクライナ難民をケアする看護師を支援するICNの取り組みに非常に協力的であったとのことでした。

「ルーマニアの救急医療スタッフの多くは、常勤の看護業務の傍ら、無給のシフト制で働くボランティアです。私たちが提供した資金は、これらのスタッフのために不可欠な包帯やその他の応急処置用具、その他の基本的な医療用品など、備品の費用に充てられています。」

一方で、カットン事務局長の報告によると、ウクライナに帰国したある難民の看護師は、ルーマニア語やウクライナ語のラベルが貼られていない市販薬の箱の解読を手伝いました。そうでなければ、これらの薬は棚に並べられたまま使用期限を迎えていたことでしょう。

ブカレスト中心部の駅に到着したウクライナの難民は、栄養失調や疲労困憊、脱水症状を起こしていることが多いです。軽傷を負っている人もいれば、糖尿病や心血管疾患などの慢性疾患があるにもかかわらず、数週間治療を受けていない人もいます。救急医療サービスは、診察を希望する人を24時間体制で診察し、応急処置を施し、トリアージを行い、必要な人にはルーマニアの主な保健医療サービスを紹介しています。

ルーマニア看護師協会の Mircea Timofte 会長は、次のように述べています。

「今回は、ロシアのウクライナ侵攻によって引き起こされた継続的な人道危機に対処するため、ルーマニアの看護師が再び支援の最前線に立ちました。救急医療チーム、難民センター、ボランティアの救急キャンプなど、看護師は必要な場所に必要なタイミングで行き、心のこもったケアを提供しています。ルーマニア看護師・助産師協会は、看護師の難民支援活動を支援するために、ルーマニアの救急医療サービスに2回にわたって寄付を行ったICNを称賛します。」

ウクライナからの難民は、女性や子どもを含む最も貧しい人々や脆弱な立場に置かれた人々が多く、彼らの大きなニーズに応えるために人道的ケアがいかに不可欠であり、今後何年にもわたって必要であるかが浮き彫りになっています。

その他の近隣諸国

ポーランドでは、#NursesforPeace キャンペーンにより、ウクライナの看護師が EU で働くためのブリッジコースを支援しています。ポーランド看護師協会の Grażyna Wójcik 会長は、次のように述べています。

「ポーランドの看護師は、ウクライナの戦争被害者を支援できることを光栄に思っています。安全で支持的環境の中で看護教育を提供することは、ウクライナの保健医療システムの再建に向けた貴重な投資となるでしょう。ポーランドの人々は今でも戦争の悪夢を覚えています。だからこそ、被害者を助けることは私たちの道徳的義務なのです！」

また、このキャンペーンで得た資金は、難民のケアに積極的に取り組んでいるモルドバ看護協会にも送られました。同協会は、難民が最も必要としているものとして、食料や赤ちゃんのおむつ、応急処置などのための医療用品を特定しています。

ICN はまた、スロバキア看護師・助産師協会と密接に連携し、スロバキアに避難しているウクライナの看護師とその家族に対し、一時避難所や健康保険などに関する情報の翻訳や、宿泊施設、食料、衣料、衛生材料の提供など、具体的な支援を行っています。

#NursesforPeace キャンペーンリーチ

#NursesForPeace ソーシャルメディアキャンペーンの開始以来、1 億 1100 万人以上にリーチし、ソーシャルメディア上でのインタラクションは 68 万 5000 件を超えました。Facebook のフレームは約 1 万 6 千人のユーザーに利用され、今回の侵攻を非難する声明文には、世界中の 45 万人以上の看護師を代表する団体を含め、3 千人以上の署名が集まりました。キャンペーンの視覚資料は、[こちらから](#)ダウンロードできます。

(和訳：日本看護協会)